

社会教育事業アルバム

8月中に行われた
社会教育事業を紹介します。

社会教育 だより



二〇一五
おおたま成人祭



成人祭に向けて、18名の実行委員が6月より準備を進めてきました。当日は、82名の新成人と恩師や来賓の皆さまとともに成人を祝い、成人としての第一歩を踏みだしました。

8月23日 高齢者芸能発表会



～日頃の練習の成果を披露しました～

8月3日 おおたま生き粋大学



～課外授業にて裏磐梯方面へ～

8月4日～8月7日
中3生サマーチャレンジ



～夏休みの思い出を沢山つくりました～

“新”村指定文化財紹介

シリーズ2

【玉井神社の三十六歌仙絵馬】

玉井神社は、愛宕権現と安達太良明神を合祀した神社で、愛宕権現は以前旧玉井村の名倉山中腹にあって、明治6年(1873)に愛宕神社と改称した。安達太良明神は、宝徳4年(1452)安達嶺から分霊されたと伝えられ、当村山入に祭祀された後、明治6年午房内に移され明治8年(1875)に社殿が建てられた。そして明治12年(1879)に名倉山愛宕神社と合祀され、玉井神社となった。『大玉村史』より

愛宕信仰は、祭神が火の神であることから火伏せの神として信仰され、また武運長久や厄病神から守る境の神としても信仰された。社殿には三十六歌仙絵馬のほか、明治期から昭和初期にかけての大絵馬が奉納され、信仰および地域の民俗文化の豊かさが窺える。

「三十六歌仙」絵馬は、明治22年(1889)に奉納され、36点のうち2点が欠落している。絹本に歌人および和歌が描かれ、黒塗りの縁に奉納者名がそれぞれ朱字で記されている。画は金子蘿蔔で、現在の伊達市梁川町に居住した人物である。狩野派の絵を学び、明治3年(1870)に梁川で屏風や襖絵などを描いたが、とくに養蚕に関する絵を描き「養蚕画家」として知られ、また優れた絵馬も多数残している。

絵馬は保存状態がよく、彩色もよく残っており、村の歴史と文化を知る上で貴重な史料である。



小野小町「色見えで移ろふものは
世の中の人の心の花にぞありける」

放課後子ども教室だより

9月4日より2学期の放課後子ども教室が始まりました。子ども教室では、金曜日の放課後に、小学生と一緒に活動していただけるボランティアさんを募集しています。(若干の謝礼あり)

【問い合わせ：教育部 生涯学習課 Tel48-3139】



～夏休み臨時教室(野菜の収穫)～



～押し花で小物作り～